

(様式1)

2024年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 028	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名 繁殖雌豚の育成管理方法におけるエコフィードの活用と評価について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 食品の製造過程で発生する食品製造副産物は、エコフィードとして家畜飼料化の取組が進み、飼料コストの低減に大きく貢献しており、養豚分野では、養豚経営における飼料費の大半を占める肥育豚を対象とした活用が主に進められている。一方、繁殖豚の育成については、日本家畜飼養標準において月齢に応じた必要養分量が設定され、養豚農家はこうしたマニュアル等に基づいて市販配合飼料の給与により行われている。 昨今の飼料価格高騰が続く中、一層の飼料コスト低減が求められており、肥育豚だけでなく、繁殖豚へエコフィードを活用することは、養豚経営に対する収益性向上につながる取組として重要と考えられる。また、エコフィードの中には、豆腐粕のように繊維質を多く含み、豚の腸内環境に好影響をもたらすと予想される素材もあり、長期に渡り飼養管理を行う繁殖豚に対して、供用年数の長期化や繁殖性の向上も期待できると考える。 こうしたことから、繁殖豚を対象としたエコフィードの活用方法や評価について検討していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	当所では、豚のエコフィード利用は肥育豚を対象として発育や肉質の評価を行っていますが、繁殖豚では実施しておりません。当所で繋養している系統豚繁殖豚は検定飼料で発育等を調査しているためエコフィードの利用は困難です。 育成期及び妊娠期の繁殖豚でのエコフィード利用は飼料費の削減が期待できるだけでなく、SDGsの取組にもつながるため、系統豚以外の繁殖育成豚や繁殖豚を対象に、豆腐粕等の県内で発生するエコフィードの活用方法や評価方法について試験実施を検討したいと考えます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			